



地域連携相談室だより（第3号）

医療法人みやうち廿日市野村病院 地域連携相談室



地域連携相談室メンバー

廿日市野村病院では、入院医療だけでなく、外来診療や健康診断、認知症支援活動、地域での健康講座などを通じて、地域の皆さまの健康を支える取り組みを続けています。

地域連携相談室も、入院や退院に関する相談をはじめ、医療や介護に関する様々なご相談に対応し、地域の医療機関や介護事業所との連携を進めています。

これからも地域の皆さまに安心してご利用いただける病院を目指し、職員一同努めてまいります。今後とも廿日市野村病院をよろしくお願いいたします。

廿日市野村病院院長 好川基大

医療法人みやうち「介護老人保健施設ひまわり」よりご案内

～入所・短期入所のご相談をお待ちしています～

介護老人保健施設ひまわりでは、医師・看護師・介護職員・リハビリ専門職管理栄養士・支援相談員が連携し、在宅復帰や在宅生活の継続を支援しています。病院からの退院調整やレスパイト利用のご相談にも対応しております。まずはお気軽にお問い合わせください。

介護老人保健施設ひまわり 空床情報(令和8年6月1日現在)

3療養棟	7月	男性1名	4療養棟(認知症対応棟)	6月	女性1名
				7月	女性1名

※空床状況は日々変動します。詳細はお問い合わせください。

相談窓口：地域連携相談室直通 TEL 0829-30-2225

医療法人みやうち 介護老人保健施設ひまわりのご紹介

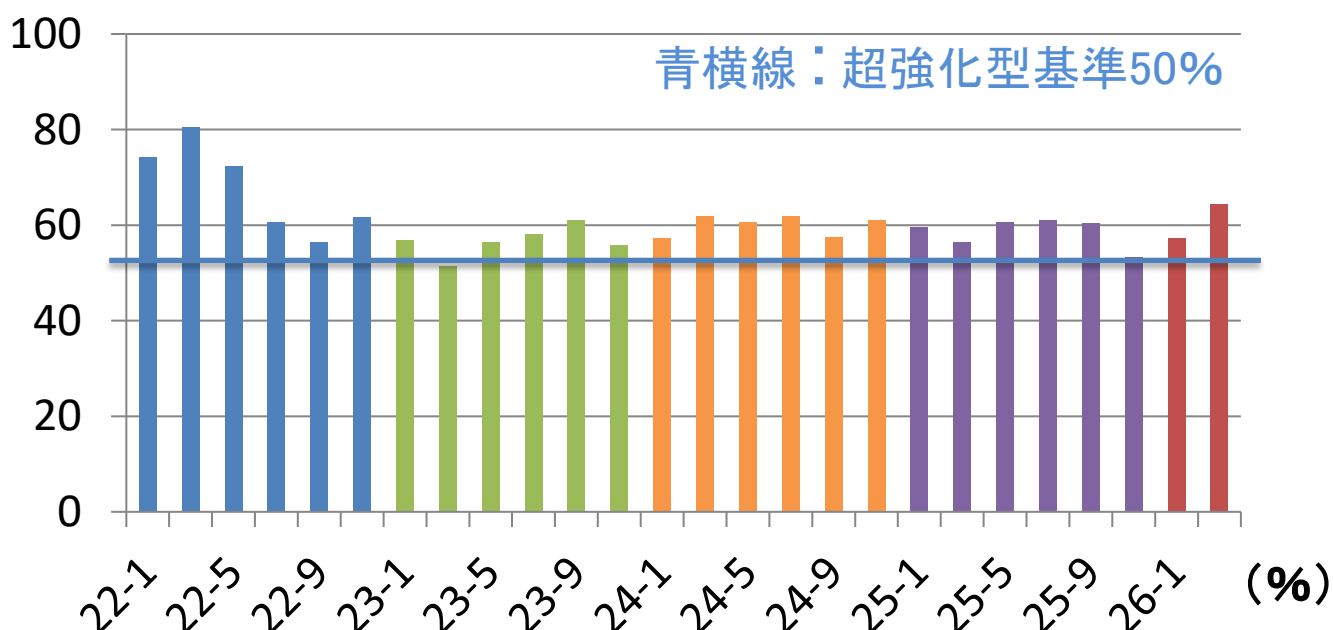
医療法人みやうちが運営する「介護老人保健施設ひまわり」は、広島県地域リハビリテーション推進事業に参画し、2019年9月から地域リハビリテーションサポートセンターとして地域の介護予防活動を支援しています。日頃は入所・短期入所・通所リハビリテーション・訪問リハビリテーションなどのサービスを提供し、医療と介護の両面からご利用者様の在宅生活を支え看取りも対応しています。施設では、医師・看護師・介護職員・リハビリ専門職・管理栄養士・支援相談員など多職種が連携し、ご利用者様一人ひとりの状態や生活環境に合わせた支援を行っています。リハビリテーションを通じて身体機能の維持・向上を図りながら、できる限り在宅生活の継続を目指しています。また、廿日市野村病院等当法人グループ内の事業所と連携し、認知症カフェや健康フェア、地域での健康講座などにも積極的に取り組み、地域住民の皆様が安心して暮らし続けられる地域づくりを支えています。



介護老人保健施設ひまわりの
支援相談員 3名

在宅復帰と在宅生活を支える、地域の架け橋

老健ひまわりの在宅復帰率の推移

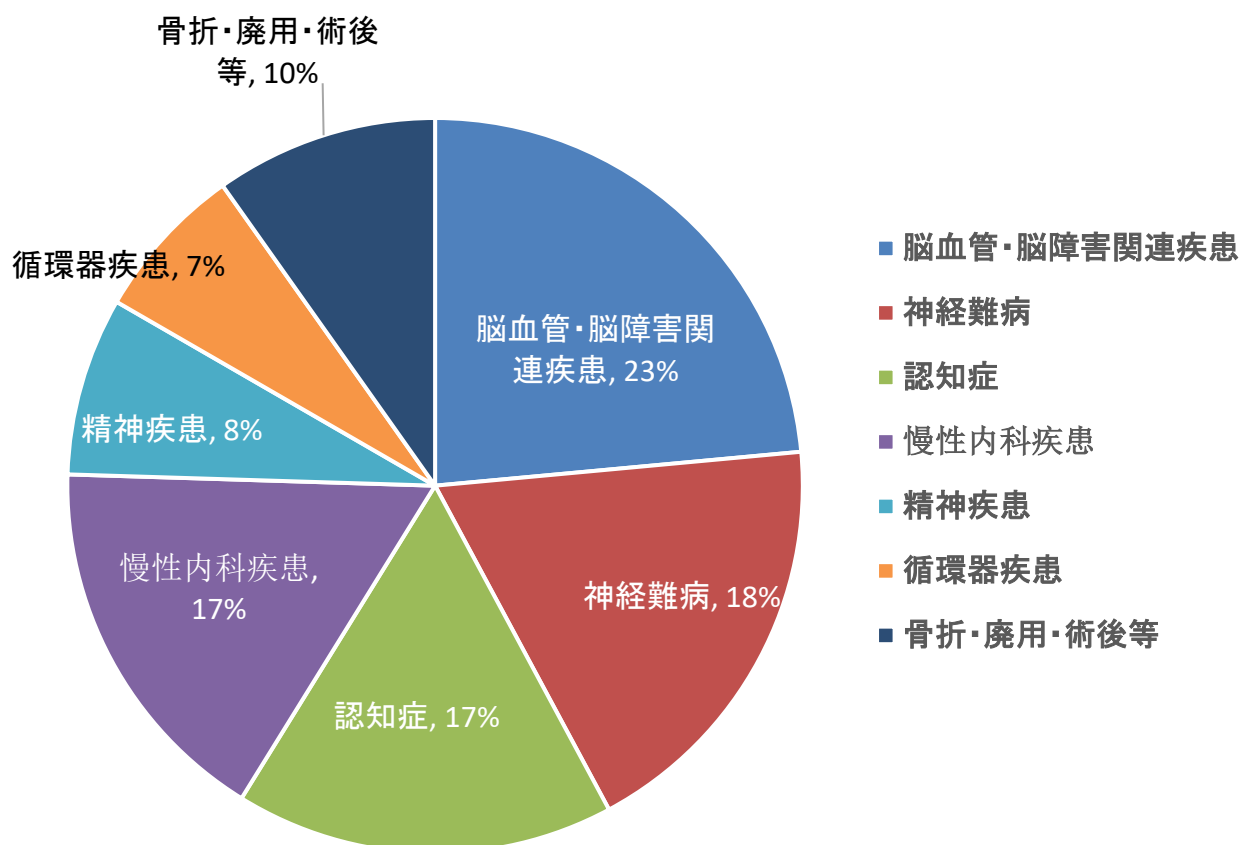


介護老人保健施設ひまわりは、在宅復帰・在宅生活支援に重点を置いた「超強化型介護老人保健施設」です。病院と在宅をつなぐ役割を担い、多職種によるリハビリや生活支援を通じて、ご本人様とご家族様が安心して地域で暮らし続けられるよう支援しております。

廿日市野村病院の入院 患者様の主な疾患

脳血管疾患・神経難病・認知症疾患を中心に、継続的な医療と療養を必要とする患者さまを支えています。

当院入院患者疾患別内訳(102名)
2026年6月現在



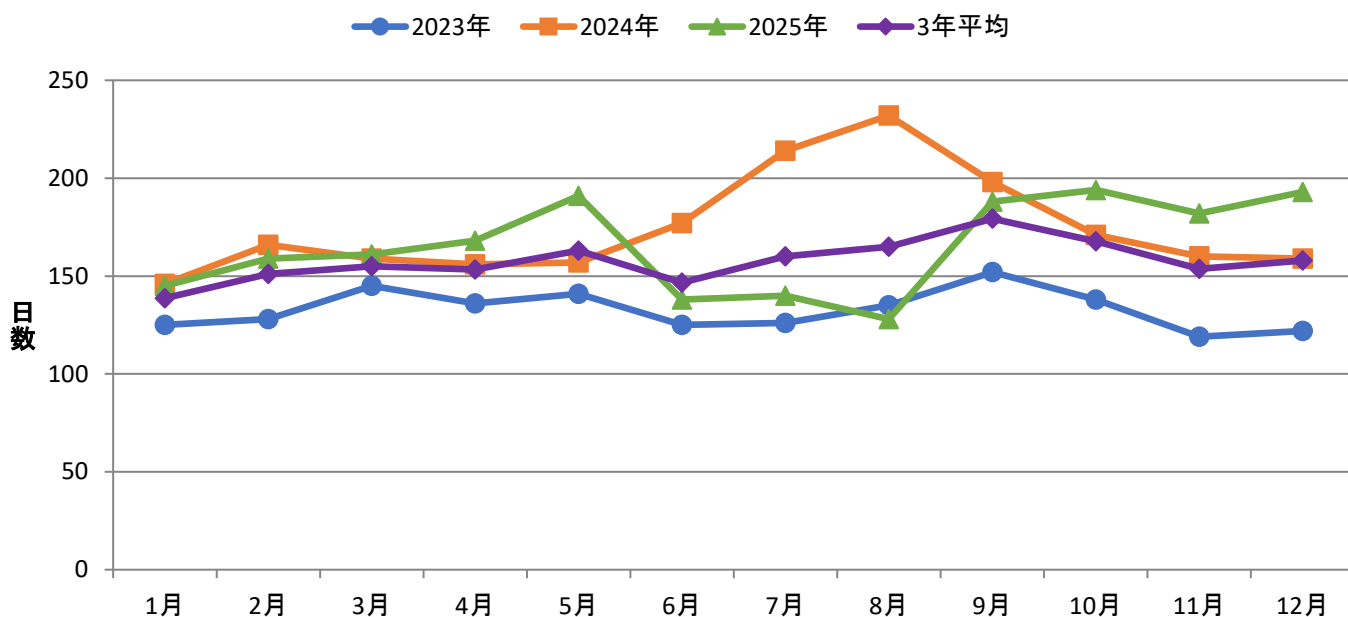
今回の集計では、現在の入院患者様102名について診断名・主訴・既往歴・入院までの経過を確認し、現在の療養継続の中心となる主病態で1名1分類しました。最も多いのは脳血管・脳障害関連で24名、次いで神経難病関連19名、認知症関連17名、慢性内科疾患関連17名でした。認知症を併存している患者様は多くおられますが、主病態が脳梗塞後遺症、意識障害、骨折後、慢性呼吸不全などの場合は、それぞれの主病態に分類しています。当院では、脳血管疾患後遺症、神経難病、認知症、慢性疾患など、医療・看護・介護を継続的に必要とする患者様の療養を多職種で支えています。

代表的な疾患群別	当院入院患者様の疾患名
神経難病	パーキンソン病、パーキンソン症候群、進行性核上性麻痺、ALS(筋萎縮性側索硬化症)、脊髄小脳変性症、神経核内封入体病など。
慢性内科疾患	糖尿病、慢性腎臓病、腎不全、慢性呼吸不全、間質性肺炎、非結核性抗酸菌症、悪性腫瘍、膠原病、強皮症、炎症性ミオパチー、クローンカイト・カナダ症候群、腎盂腎炎後
骨折・廃用・術後等	大腿骨頸部骨折・転子部骨折術後、圧迫骨折、多発肋骨骨折、廃用症候群、褥瘡、術後リハビリ継続

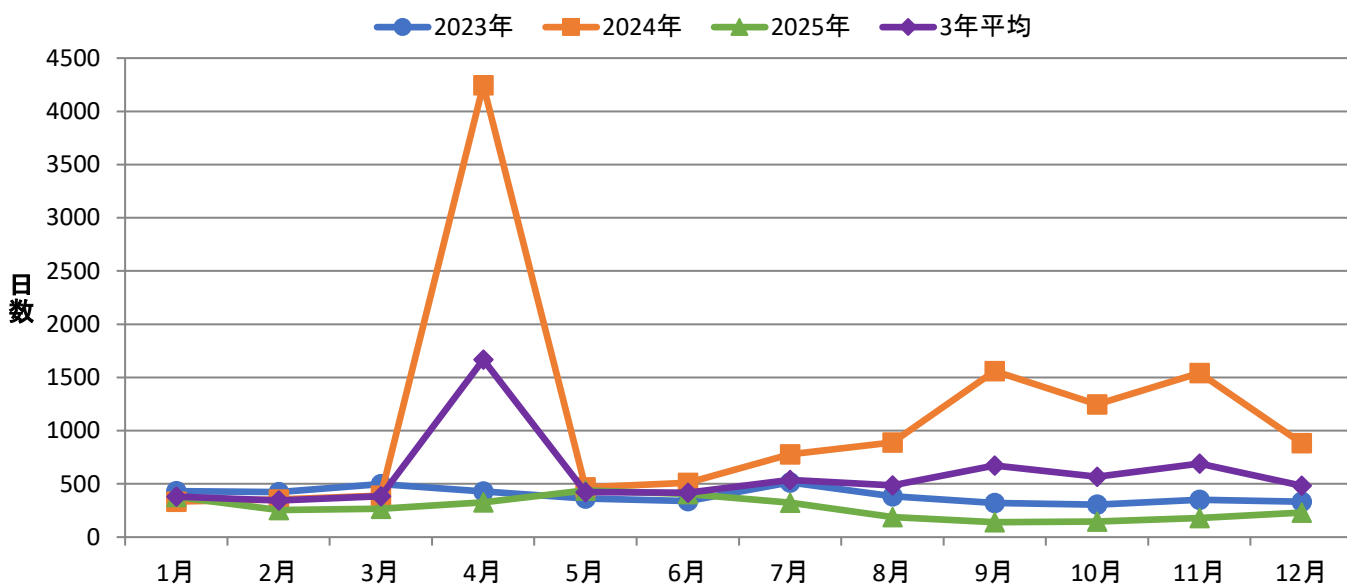
廿日市野村病院の平均在院日数

当院(3病棟・4病棟)の平均在院日数は、2023年～2025年を通じておおむね140～170日前後で推移しており、全国の療養病床平均(約115～117日程度)と比較すると、やや長い傾向がみられます。これは、医療依存度の高い患者様や、長期的な療養・生活支援を必要とされる患者様を多く受け入れていることが背景として考えられます。また、急性期治療後も継続した医療や看護が必要な方に対し、多職種で関わりながら安心して療養いただける体制を整えていることも、当院の特徴の一つです。

療養病棟 平均在院日数推移



特殊疾患病棟 平均在院日数推移



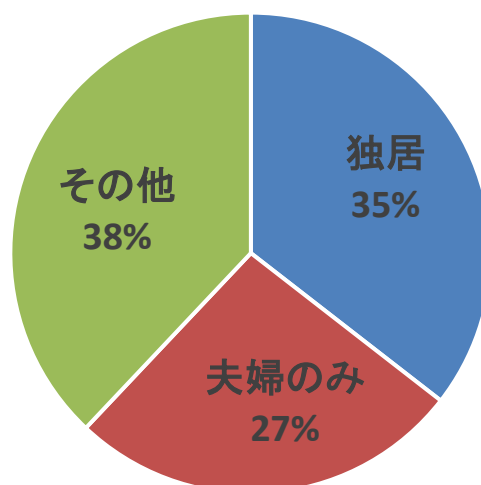
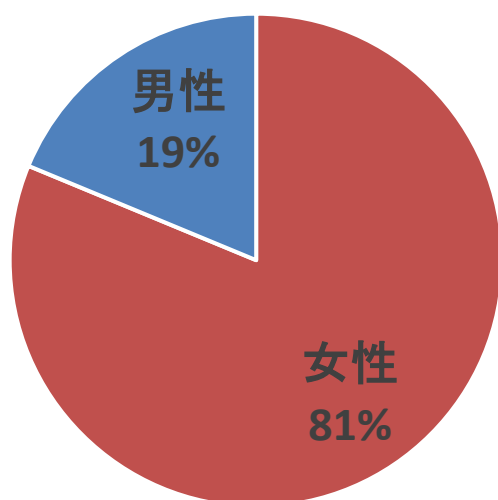
2病棟では、神経難病や意識障害の患者様が入院患者の8～9割を占めており、長期的な医療管理や療養支援が必要な方を多く受け入れています。50代など比較的若い世代の患者様もおられ、経管栄養、たん吸引など医療依存度が高く、在宅や一般的な介護施設では療養継続が難しいケースも少なくありません。

当院は、そうした患者様が安心して療養生活を続けられる「地域における受け皿」としての役割を担っています。医師・看護師・リハビリ専門職・相談員など多職種が連携し、長期療養を支える体制づくりに努めています。

認知症初期集中支援チーム 活動状況

廿日市野村病院では、廿日市市から委託を受け、2016年10月より「**認知症初期集中支援チーム**」の一員として活動しています。

支援対象者の世帯構成と特徴(2016年～2025年)



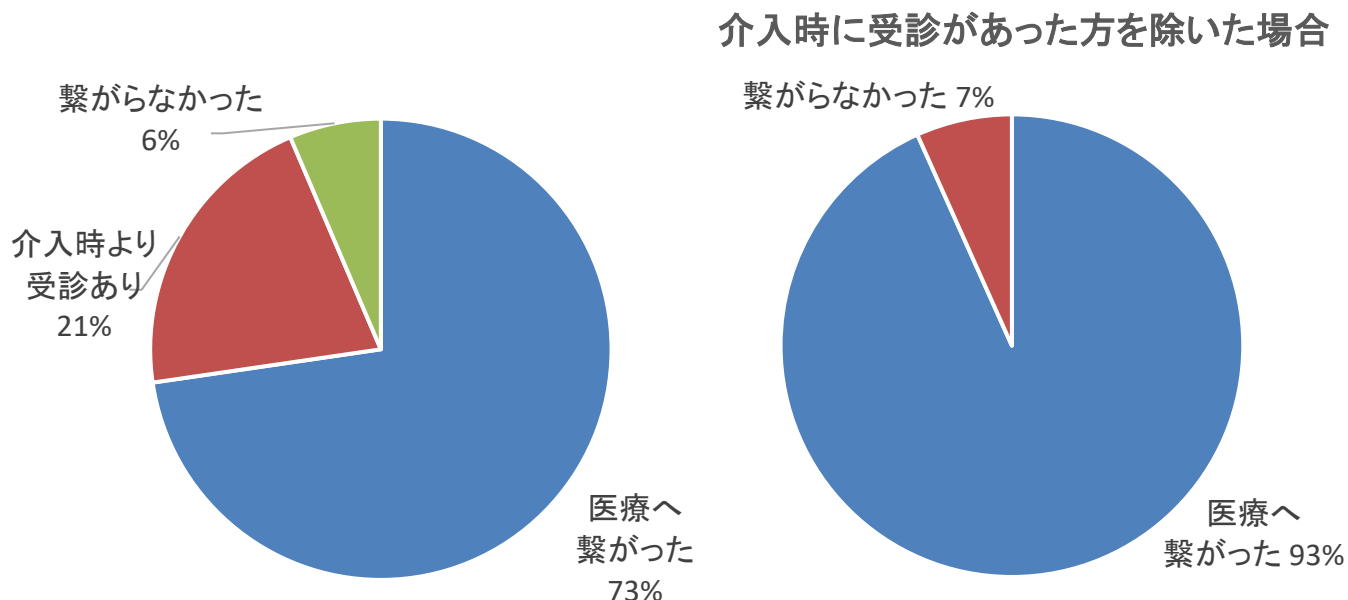
認知症初期集中支援チームが介入した方のうち、約80%が女性でした。認知症は高齢になるほど発症頻度が高くなり、女性は平均寿命が長いことから、全国的にも認知症のある方の多くを女性が占めています。また、世帯構成では独居世帯が35%、夫婦のみ世帯が27%で、高齢者のみで暮らす世帯が6割以上を占めました。これは全国の高齢者世帯において、独居世帯や夫婦のみ世帯が増加している傾向と一致しています。

高齢者のみの世帯では、認知症の症状があっても周囲が気付きにくく、受診や介護サービスの利用につながるまでに時間を要することがあります。特に高齢夫婦世帯では、介護を担う配偶者自身も高齢であることから、家族だけで問題を抱え込んでしまうケースも少なくありません。当チームでは、ご本人だけでなくご家族への支援も重視しながら、医療・介護・福祉の関係機関と連携し、住み慣れた地域で安心して生活が続けられるよう支援を行っています。

今後も増加が見込まれる独居高齢者や高齢夫婦世帯に対し、早期発見・早期支援を通じて地域での暮らしを支えることが、認知症初期集中支援チームの重要な役割となっています。

認知症初期集中支援チーム 活動状況

医療への引継ぎ状況

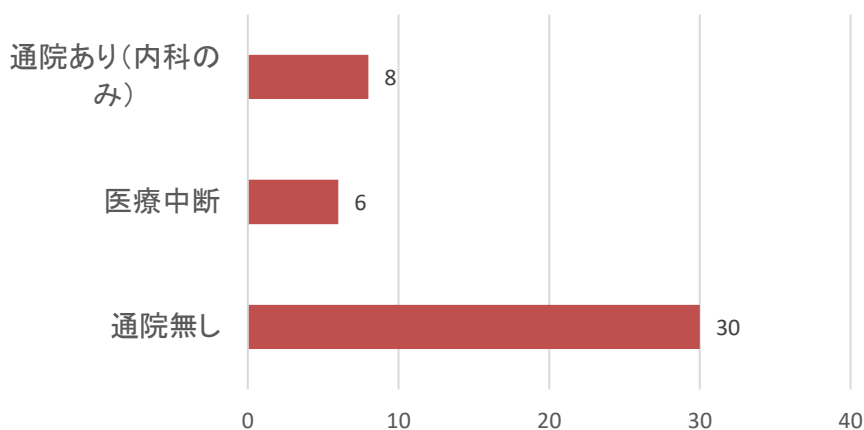


当院の認知症初期集中支援チームは、2016年より多くの方の支援を行ってきました。そのうち、支援開始時に未受診であった方を含め、**73%が医療機関の受診や治療につながりました。**

さらに、介入時点ですでに受診していた方を除いた未受診者に限定すると、**93%が医療につながる結果**となりました。

認知症は早期の診断と適切な支援が重要です。当チームでは、受診をためらうご本人やご家族に寄り添いながら支援を行い、必要な医療や介護サービスへつなげる役割を担っています。今後も地域の皆さまが安心して暮らし続けられるよう、早期発見・早期支援に取り組んでまいります。

2025年度介入時の受診状況



廿日市野村病院健康フェアに「ナナラ食堂プラス」が出店しました

2026年5月10日に開催された廿日市野村病院健康フェアに、ナナラ食堂プラスが出店しました。当日は焼きそば、おにぎり、わたがしを販売し、多くの来場者で賑わいました。健康チェックや各種相談コーナー、ステージイベントなどとあわせて、子どもから高齢者まで幅広い世代が交流する場となりました。

ナナラ食堂プラスは、医療法人みやうちと宮内地区コミュニティづくり協議会が協力して運営する地域の交流拠点です。子ども食堂として食事を提供するだけでなく、世代を超えたつながりを育み、地域住民が気軽に集える居場所づくりを目指しています。健康フェアへの参加は、地域の皆さまに活動を知っていただく機会となるとともに、健康づくりと地域づくりを結びつける取り組みとなりました。



炊き立てご飯のおにぎり
美味しいよね～



焼きそばを焼く副院長先生



大好評の綿菓子はかわいい中学生の
ボランティアさんたちが担当です。



おにぎり作りに奮闘する
看護部長



エヌカフェ 2026年5月の認知症カフェ「n-cafeひまわり」の様子

第47回目となった5月のn-cafeひまわりは、廿日市野村病院健康フェア内で開催し、ステージイベントや相談コーナーを通じて多くの地域の皆さまと交流することができました。健康フェアの様子とともにお伝えいたします。



野村理事長による
2026年健康フェアの
開会宣言



廣琉(エイサー)による迫力ある演舞や
キッズHIPHOPクラブの元気いっぱいのステージ
が会場を盛り上げ、多くの来場者で賑わいました



健康チェックや各種相談に加え、地域団体や
キッチンカーによる飲食・販売コーナー、餅つき
実演など世代を問わず楽しめる健康フェアとして、
地域の交流の場にもなりました。



地域連携相談室直通TEL : 0829-30-2225